

HELLO!!!

ただいま！

内子町の皆さん、こんにちは。ま、「こんにちは」より「ただいま」と書いたほうが正しいと思います。ほとんどの町民の皆さんがわたしのことを覚えていらっしゃるかもしれませんが、簡単に自己紹介をさせてください。

◎自己紹介

わたしはドレーン・アルントと申します。ドイツの首都ベルリンから来ました。旧東ドイツで生まれ、ベルリンの壁が崩壊したときは13歳でした。

高校時代から言葉や文化をはじめ日本に大きな関心を持っていたので、ベルリンのフンボルト大学に入学した際に日本学を専攻し、2003年に修士号を取得して卒業しました。

日常生活や就労を通じて、日本や日本人について理解を深めたり、日本の伝統芸能や日本人の考え方を学んだりしたかったので、JETプログラムに応募し、2004～2007年まで(財)内子町国際交流協会に国際交流員として勤めました。その3年間に日本語能力を深め、日本の社会、特に人間関係をよく知るようになって、労働社会や内子町役場の仕事の方法

などを認識しました。日本での生活にすぐに順応することができたと思います。

◎内子町への思い

2007年に帰国したときに(なぜ2年前にドイツへ帰国したのか、正直に言うと、わたしにも分かりません)、内子町のためにやり残した仕事がたくさんありました。例えば、観光地や博物館などの資料づくりや翻訳、ドイツ語講座、国際理解講座、ローテンプルク市との友好関係を深めること、町並み保存など。これらに対して、自分の責任を果たしたいと思っています。

内子町にいる間に、子どもも大人も非常に好奇心が強いと感じていたので、ドイツ人、またヨーロッパ人として、日本人ではない代表とし

て、町民の皆さんの関心・理解力・視野をもっと広げたいと思います。

わたしのモットーは「自分の目で世界を見る機会がない内子町の人たちのために、世界を持っていきたい」ということです。相互理解と教育に役立ちたいと思います。

何をするときでも、強い動機・興味・関心を持って取り込みます。仕事に深く関わり、責任を持って働きます。新しい挑戦を精一杯頑張りたいと思います。これから、今までの経験と人脈を生かして、内子町の顔となり、前回よりもっともっと一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

こうして、わたしのことを再び受け入れて、あらためてチャンスを与えていただき、本当にありがとうございます。



国際交流員
ドレーン・アルント

Doreen A ●●

●ドイツでのお別れパーティの様子



※JETプログラム＝「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称。地方公共団体が総務省・外務省・文部科学省・(財)自治体国際化協会の協力のもとに実施する。



事務局 内子分庁3階
 電話 (0893)44-2114
 FAX (0893)44-6137
 E-mail kokusai@town.uchiko.ehime.jp
 ホームページ <http://utia.jp/>

別れ、出会い、 そして再会……

◆内子町国際交流員 交替 ◆中国人学生ホームステイ受け入れ



8月3日に開かれた二人の歓迎会で

◆内子町国際交流員マルコ・シュルツェさんと ドレーン・アルントさんの別れ と再会

平成19年から2年間、内子町国際交流員を務めてきたマルコ・シュルツェさんが8月5日で契約満了を迎え、新たにドレーン・アルントさんが就任しました。

マルコさんは、今後も日本国内で新たな目標に向かって活動していくということです。

ドレーンさんの自己紹介などは「HELLO!!!」(22ページ)をご覧ください。

Q国際交流員の仕事とは？

- ①国際交流に関する事務(外国語刊行物などの編集・翻訳・監修、外国からの訪問客の接遇など)
- ②財団法人内子町国際交流協会の業務に関する企画・立案、実施に当たった協力・助言、通訳など
- ③学校教育における外国語活動の補助、および国際理解活動の促進
- ④地域住民の異文化理解のための活動
- ⑤外国人住民の生活支援活動への協力 など

◆8月7～9日

中国人学生が内子町でホームステイ

愛媛大学国際教育支援センター主催の「日本語・日本文化研修プログラム」で来日した中国人学生7人が8月7～9日にかけて、内子町などでホームステイしました。

同学生たちは、中国広東省の韓山師範学院の学生と卒業生。7日は、内子笹踊りにも参加しました。9日には、ホストファミリーも全員参加して昼食会を開催。食文化の違いや外国語(英語)教育の格差を痛感する場面もあり、楽しく、有意義な交流をすることができました。ホストファミリーとの別れの際には、日本語で将来の夢を語ってくれた彼らに声援を送り、未来を担う若い世代との交流が意義深いものであることを再認識しました。

来春4月には友好都市であるドイツ・ローテンブルク市から、市長をはじめ市民の皆さんが内子町を訪れる予定です。

次はどんな出会い、再会があるのか楽しみです。



ホストファミリーとの昼食会